

特集

ローカル局が

字幕

解説

手話

“合理的配慮”放送を増やすために

総務省が主催した「視聴覚障害者等向け放送に関する研究会」が4回の開催を通して報告書をまとめた。報告書のタイトルに「すべての人に優しい放送のために」とある。障害を持つ人たちに伝わる放送は、高齢者をはじめ、日本在住の外国人や、音声を出せない環境など、「すべての人に伝わる」というコンセプトを鮮明にしたことに注目したい。さらに、手話言語条例が全国の自治体に広がる中、言語としての手話をリスペクトし、手話放送の付与目標を数値で示したことは意義ある一歩と言える。

そこで、地域住民との結び付きを大事にするローカル局として取り組んでいる字幕と手話の事例をまとめた。また、手話放送に必要な手話通訳者や、リアルタイム字幕に必要な入力・編集体制と人材確保など、踏み込んだ座談も参考にしていきたい。(特集企画担当：吉井 勇・本誌編集部)

【特集構成】

これからの10年を指し示す「行政指針(案)」を聞く

総務省地上放送課 課長 三田一博氏

英国事例

字幕、手話、音声解説でメッセージ力をアップするテレビCM

追手門学院大学 国際教養学部 准教授 福島孝博氏

事例報告

手話放送 テレビ静岡 2,000回を超える手話付き番組『テレビ寺子屋』の現場から報告**字幕放送** ・準キー局／関西テレビ放送 リアルタイム字幕(生字幕)とオートマッチ方式ニュース字幕の取り組み
・独立U局／びわ湖放送 番組と提供CMでクローズドキャプション式字幕放送のトライアル

「当事者+事業者」座談会 ローカルでは手話通訳士、字幕入力者の不足は解消できる

放送用リアルタイム字幕制作態勢の構築を聞く 音声認識技術とネットワークで実現したフェイスの取り組み